

放送日： 平成 20 年 9 月 7 日
タイトル： ジェネリック医薬品について（第 1 回）
担当者： 薬剤師 松本 名美

公立甲賀病院の薬剤師、松本と申します。
今回より、最近テレビコマーシャルでも、よく宣伝されておりますジェネリック医薬品について、3 回に分けてお話をさせていただきます。

第 1 回目の今回は、ジェネリック医薬品とは？
第 2 回目はジェネリック医薬品の値段と、効果と安全性について
第 3 回目はジェネリック医薬品を、どこでどのように処方してもらえるのか？
についてお話しします。

さて、みなさんはジェネリック医薬品って言葉を聞かれたことがありますか？1 つの薬をつくるには、ヒトや動物を対象とした、数多くの実験が行われ、およそ 10 年から 15 年という長い年月と、150 億円から 200 億円という膨大なお金がかかっています。そこで、新しく研究開発された医薬品については、開発した製薬メーカーが独占的に製造し、販売することができる特許期間が設けられています。このように全く新しく研究開発され、特許期間が設けられた医薬品が、先発医薬品です。ところが、先発医薬品の販売が始まってから、4 年から 10 年の特許期間が過ぎると、他の製薬メーカーも同じ成分で同じ効果の医薬品を製造することができます。これがジェネリック医薬品又は後発医薬品と呼ばれるものです。

ジェネリック医薬品は、先発医薬品と同じものさえ作れば良いわけですから、新たに一から研究開発する必要のない分、先発医薬品に比べ、短時間で安い経費でつくることができます。その結果、ジェネリック医薬品は、安く販売できるので患者さんへの負担が軽くなります。

ただ、全ての医薬品にジェネリック医薬品があるわけではありません。先程申しました特許期間内の先発医薬品や、使用する患者さんの少ない病気の薬などには、ジェネリック医薬品は発売されていない場合があります。

また、1 つの先発医薬品に対して、1 つのジェネリック医薬品しか販売されていないものや、使用する患者さんの多い病気の薬では、いくつものジェネリック医薬品が販売されていることもあります。

では、なぜ今テレビコマーシャルなどで、ジェネリック医薬品がさかんに宣伝されているのでしょうか？ジェネリック医薬品は、患者さんの経済的な負担が軽くなるという良い面があり、更に国民医療費が増大している現在、ジェネリック医薬品を積極的に使用することで、医療費の抑制が期待できます。そこで、日本の国の方針において「平成 24 年度までにジェネリック医薬品の使用割合を 30%以上にする」という目標が掲げられています。

現在、日本でのジェネリック医薬品の使用割合は、全医薬品の使用数量を 100%とした場合約 16%ですが、欧米では 50%を超えています。他の先進国に比べて、日本の使用割合が低い理由は、ジェネリック医薬品を処方する体制が整っていないことなどが挙げられます。日本でも、特にここ数年の間に、国の方針によりジェネリック医薬品を患者さんの求めに応じて、処方しやすい体制が整えられてきており、今後ますますジェネリック医薬品が普及していくものと思われます。

それでは、次回の放送ではジェネリック医薬品の値段と、効果と安全性についてお話をさせていただきます。